令和２年度（第２回）北九州市子ども読書活動推進会議（要旨）

１　日時　　令和２年８月２０日（木）１３：００～１４：３０
２　場所　　北九州市立子ども図書館２階　大研修室
３　出席者
［委　員］　（敬称略）
山元悦子、矢崎　美香、河井　律子、上満　佳子、本田　壽志、相良　勝弘、黒田　玲子、大庭　里美、村岡　純、仲　紀子、尾場瀬　淳美、内藤　稚代、原田　多賀子、龍　真奈美　　計１４名
［事務局］　太田清治教育次長　他１２名
４　議事
（１）次期「子ども読書プラン」（たたき台）について
（２）今後の策定スケジュールについて
５　主な質疑応答
（１）次期「子ども読書プラン」（たたき台）について
（委員）読書すればこんな大人になるというものが見えない。具体性を見せると子どもたちにメリットがあるのではないか。
（委員）「読書の楽しさを発信できる子ども」をビジョンに入れてほしい。
（委員）読書の意義、目的、楽しさを伝えることが大切である。
（事務局）読書の意義については、たたき台のビジョンの右側に記載している。前回プランと同様、リーフレットの形で外側に分かりやすく次期プランを見せ、内側に概要を記載する予定である。
（委員）問題解決能力、人生の色々な場面において対応できる考え方等が読書を通して身につく。
（委員）司書養成科目の児童サービス論の中で、「問題解決能力」が読書によって身につく事が示されている。
（委員）子ども司書の養成、ジュニアサポーターなど、前回のプランの手薄な部分について、子ども図書館が開館したのもあり、手厚くすればよい。
ヤングアダルトよりもティーンズが使われている。読書好きな子どもが横方向に発信する場を作ってあげることが大事なのではないか。
学校で活動しているボランティアをバックアップできないか。
（事務局）前回のプランが７つの施策の内容が錯綜しているので、５つに集約した。子ども図書館が中心となって、読み聞かせボランティア団体を、地区館を掌握し、イニシアティブをとり、連携していきたい。
ティーンズの取組、与えられるものでなく、自分たちから発信していくことが大切。双方向で行っていきたい。
（委員）「地域」の市民センターは、子ども同士の発信の拠点となると思う。小

１～小６まで参加する「生き生き子ども講座」で、子どもの読書活動推進の講座が行えるのではないか。

（委員）市民センターはかなり可能性がある。子どもから大人まで利用している。大人向けの講座に読書関係のものを企画してもよいと思う。また、生まれてから小学校に上がるまで、大人による読書習慣が付くか付かないかで大きな差が生じる。０歳から高齢者まで幅広く読書を広げるためには市民センターを活用すべき。

（事務局）市民文化スポーツ局とも協議していく。

（委員）読書活動の普及啓発の推進はどこが担うのか。どこかが取りまとめないとうまくいかないのでは。市立図書館がマネジメントをするのが良いのではないか。

「市立図書館の機能の充実」を入れてほしい。コロナで図書館に行けないが、ＳＮＳ等は見ることができる。レファレンスの事例集を出すなどの情報発信を行うべき。

「子どもの読書を支える大人を増やす」に「ボランティア」という文言を入れるべき。

（委員）子ども司書養成講座の中で「子ども図書館だより」を作るなど子ども同士が動いて発信するとよいのではないか。

（委員）図書館の機能の充実という話では、図書館司書や学校司書（学校図書館職員）のスキルアップが必要ではないか。

（委員）小学校でブックペルパーをしており、知りたい、やりたいと意欲があるが、どこまでやっていいか分からないことが多い。学校図書館職員は週に１～２回来られるが、相談できない。

（委員）学校図書館職員に読み聞かせ、平和学習など、今年度も協力してもらった。全市立中学校に図書館司書が配置されている。

（事務局）学校図書館職員を配置し１０年。学校図書館職員、ブックペルパーのおかげで、学校図書館のクオリティが上がった。昨年度は、管理職、学校図書館職員がペアで参加する研修した。今年は図書館主任教諭と図書館職員の研修を行い、より学校の中でマネジメントできるようにする。

（会長）学校図書館の館長は校長。校長がいかにマネジメントをしていくかが重要である。

（委員）１０年間で学校図書館職員の配置は終わったのか。

（事務局）最初は７名。最初から中学校区に置くことが目的だったので、そういう意味では達成したことになる。

（委員）子ども達は、発信、交流する喜びを知ると、また本を手に取る。
（会長）３番目の方向性の「子どもの読書を支える大人を増やす」を「家庭」に限定してはとの意見があることについていかがか。
（委員）家庭だけに限定するのは、いかがなものか。
（委員）この書き方でよいのではないか。大人でどうして本を読まないのかと思う。問題解決、生涯教育を身に着けるために、読書をしない手はない。
（事務局）「読書好きの大人を増やす」については、どのような指標をもって成果を図るのか難しいのではと意見が出た。家庭に限定すると指標が取りやすい。
（委員）家庭でテレビを消してリビングのソファーで本を読む環境を作ることが大事なのではないか。
（委員）学校でアンケートがとれるのではないか。
（委員）家庭での読書冊数が少ない、貸出冊数が伸びないとあるが、読書はしているが図書館で借りず買っている人がいる。書籍の購入についてアンケートをしたことがあるか。
（事務局）行ったことはないと思う。学校に協力してもらえばできる。
（委員）課題の「障害者、外国人」において、「読書に親しむ日常を作る・環境を作る」とは、どのように考えているのか。
（事務局）デイジー図書は、教育センター、点字図書館にしかないので、子ども図書館にあれば、障害者の方も利用してもらえるのではないかと考えている。
（委員）障害者、外国人にはボランティアバンクの活用を考えてはいかがか。

（２）今後の策定スケジュールについて
（事務局）本日の意見を踏まえ、素案の策定に取り掛かる。１１月に第３回推進会議を開催。素案を示す。その後、教育委員会会議、市議会へ素案について報告し、１２月にはパブリックコメントの実施を行う予定。来年１月に第４回推進会議を開催しパブコメ結果の報告とそれを反映した最終案について協議。３月に教育委員会会議で成案の議決という流れで考えている。